

## ■知的障害のある子どもへの実践事例

# 読書の秋！ 日本の昔話や外国の民話に親しもう！ —マルチメディアDAISY図書を活用して

鳥取大学附属特別支援学校  
児島陽子・入川加代子

### はじめに

本校は、「生活を楽しむ子」を教育理念に掲げ、子どもたちの毎日の生活が充実した豊かなものになるようにと願い、日々教育実践に取り組んでいます。図書館教育では、「知的発達に遅れがある子どもたちにも読書の楽しさや情報を保障したい」との思いから、その拠点である学校図書館の整備を進めてきました。（『わいわい文庫活用術①～④』参照）

その結果、昼休憩にはたくさん子どもたちが学校図書館に来館し、集中して本を読む姿や、うれしそうに本を借りる姿が見られるようになり、貸し出し冊数やリクエスト数も年々増えてきています

しかし一方で、貸し出し図書の分類をしてみると、定番の絵本なども借りられてはいるもののヒーローやキャラクターものの図鑑、アニメやゲームの映像が本になっているもの、歌やアイドルの雑誌など、子どもたちの興味・関心が高いジャンルの資料が多く借りられていることがわかりました。

もちろん、子どもたちがそういった本や雑誌を見て過ごすことは“余暇の充実”という面で大変重要ですが、学校図書館としては、子どもたちに、もっと美しい文章や楽しいお話にも触れてほしいと感じました。

### 研究目的

そこで、9月に「読書の秋！ 日本の昔話や外国の民話に親しもう！」というテーマで、学校図書館を活用した授業を行いました。

通常子どもたちならよく知っている昔話をあまり知らない子どももいて、ぜひ、本校の子どもたちにも定番の昔話や楽しい民話に親しんでほしいと思いました。また、知的障害特別支援学校では、一律の教科書（例えば、小学校の国語の教科書には昔話や民話に親しむ單元がある）を使用しないので、より意識して取り組まなければ、定番の昔話や楽しいお話に触れる機会はなかなかないと考えたからです。そして、その資料の一つにマルチメディアDAISY図書を活用することにしました。

## 実際の取り組み

中学部2年生（7名）と1年生（6名）対象に行った授業のねらいや流れ、指導のポイント、担任の先生方のコメントを紹介します。

### ◎読書の秋！ 日本の昔話に親しもう

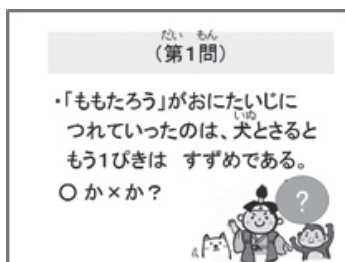
生活単元学習 中学部 2年生

#### 〈ねらい〉

- ・日本の昔話にはどんな話があるのか知り、日本の昔話に興味・関心を持つ。
- ・日本の昔話に親しむ。

#### 〈学習の流れ〉

- ①映像（昔話の主人公が出演しているテレビのCM）を見て、昔話の主人公の名前を当てる。  
ももたろう・きんたろう・うらしまたろう・いっすんぼうし・かぐやひめ
- ②日本昔話の○×クイズをする。
- ③昔話（マルチメディアDAISY図書）を視聴する。どの話を視聴するか生徒と相談して決める。
- ④いろいろな日本の昔話の紹介を聞く。（絵本・DVD・マルチメディアDAISY図書など）



○×クイズ



多媒体での昔話の紹介

#### 〈学校司書・司書教諭・担任のかかわりや指導のポイント〉

- ・司書教諭は、生徒が日本の昔話に興味・関心が持てるように、映像やパワーポイントを活用してクイズを行う。昔話については、よく知っている生徒もいるが、実態がさまざまなので、代表的な昔話を取り上げる。
- ・学校司書は、昔話の分類番号や配架場所について話をする。さまざまな日本の昔話（絵本・マルチメディアDAISY図書・DVD）を紹介する。
- ・担任教師は、生徒がどんな昔話を知っているか実態を把握し、さらにどんな昔話に親しませたいか、司書教諭や学校司書と相談する。授業後は、読書の幅が広がるように声かけをしたり、学級でも朝の読書の時間などに読み聞かせやマルチメディアDAISY図書などの視聴をしたりする。

（担任より）

有名な昔話をよく知っている生徒と

あまり知らない生徒がいて、実態がさまざまだったので、みんながよく知っているわかりやすい話から取り組んでもらいました。しかし、生活年齢もあってか、やさしいお話よりもあまり知らないようなお話に興味を持って聞いていました。今後、鳥取の民話など地域の民話にもふれる機会を作りたいと思います。

◎読書の秋！ 外国の民話に親しもう  
生活単元学習 中学部2年生・1年生  
〈ねらい〉

- ・外国の民話にはどんな話があるのか知り、外国の民話に興味・関心を持つ。
- ・外国の民話に親しむ。

〈学習の流れ〉

- ①外国の民話について説明する。
- ②中国の民話『王さまと九人のきょうだい』のマルチメディアDAISY図書を視聴する。
  - ・あとでどんな話だったかクイズをするので、よく聞いておくように伝えておく。
- ③『王さまと九人のきょうだい』の挿絵を配り、グループごとにきょうだいたちが、どんな順番で出てきてどうしたか、挿絵を並べてストーリーを考える。
- ④絵本の絵を見ながら順番を確かめる。
- ⑤外国のいろいろな民話について知る。



『王さまと九人のきょうだい』の視聴

〈学校司書・司書教諭・担任のかかわりや指導のポイント〉

- ・司書教諭は、生徒の実態を考慮し、繰り返し構造になっていて、ストーリーの展開がわかりやすい外国の民話を選書する。話の内容が理解できるように、また、話の内容に興味・関心が持てるように、挿絵を活用してグループでストーリーを考える活動を取り入れる。
  - ・学校司書は、外国の簡単で楽しい民話（絵本・マルチメディアDAISY図書・DVD）を準備し、紹介する。
  - ・担任教師は、ストーリーをグループごとに考えるとき、生徒の実態に応じて声かけや助言を行う。また、授業後は、読書の幅が広がるように朝の読書の時間などに読み聞かせやマルチメディアDAISY図書の視聴を行う。
- (担任より)
- ・ストーリーの展開がわかりやすく、

とても興味を持って聞いていた。自分で読んで内容を理解することや落ち着いて話を聞くことが難しい生徒も、挿絵や読んでいる箇所が強調されるマルチメディアDAISY図書のおかげで、集中して聞き、その後の質問にも積極的に答えていた。この生徒がこのような姿を見せることはそんなに多くあることではない。最後に外国の民話を何点か紹介してもらい、休憩時間に興味を持って手に取る姿が見られた。また、朝の読書の時間には、自分が読みたい民話のデータを入れたタブレット端末を使って、民話を楽しむようになった。

- 挿絵をストーリーの場面順に並べる活動は、グループの友だちと相談しながら楽しそうに取り組んでいた。学習の最後にたくさんの民話を紹介してもらい、ふだん民話を読まない生徒も手にとって読み、その楽しさやおもしろさに親しむことができた。

授業の中で学校司書は、子どもたちに絵本やDVD、マルチメディアDAISY図書などのいろいろな媒体の昔話や民話を紹介しました。また、授業後には紹介した絵本をクラスに貸し出したところ、授業と授業の合間に手にとって読んだり、視聴したい民話のデータを自分のタブレット端末に入れてもらって、朝の読書の時間に読んだりする姿

が見られました。また、授業の時間には、クラスで来館し、『まんが日本昔ばなし』のDVDを見て、いろいろな昔話にも親しみました。



教室に貸し出した本を手にとって！



タブレット端末を使って朝の読書

学校司書が、授業の中で紹介した昔話や民話は、以下のとおりです。

<日本の昔話>

『ももたろう』

絵本・マルチメディアDAISY図書

『いっすんぼうし』

絵本・マルチメディアDAISY図書

『かぐやひめ』

絵本・マルチメディアDAISY図書

『はなさかじい』  
マルチメディアDAISY図書  
『うらしまたろう』  
絵本・マルチメディアDAISY図書  
『わらしべちょうじゃ』  
マルチメディアDAISY図書  
『金太郎』  
絵本・マルチメディアDAISY図書  
『まんが日本昔ばなし』DVD

<外国の民話>

『こかげにごろり』金森襄作/再話（韓国の民話）福音館書店（絵本）  
『ひやくにんのおとうさん』譚小勇/文（中国の民話）福音館書店（絵本）  
『こんや、妖怪がやってくる』君島久子/文（中国の民話）岩波書店（絵本・マルチメディアDAISY図書）  
『巨人グミヤーと太陽と月』（中国の民話）岩波書店（絵本・マルチメディアDAISY図書）  
『ころころパンケーキ』P.C.アスビョルンセン/文（ノルウェーの民話）偕成社（絵本）  
『スーホの白い馬』大塚勇三/作 赤羽末吉/絵 福音館書店（絵本・マルチメディアDAISY図書）

## マルチメディアDAISY図書の活用について

今回の取り組みでは、クラス全員で

マルチメディアDAISY図書（『いっすんぼうし』『王さまと九人のきょうだい』）の視聴を行いました。特に『王さまと九人のきょうだい』の視聴では、担任の先生の感想にあったように、ふだん、絵本の活字を読んでその内容を理解するのは一人では難しいと思われる生徒が、マルチメディアDAISY図書を視聴した後で、「次に出てきたのは誰かなあ？」との質問に「ながすねだが！」「くいしんぼう！」などと意欲的に答えようとし、話の内容を理解して、楽しんでいる様子が見られました。また他の子どもたちも、約25分間という長い話ですが、スクリーンにくぎづけになり、話のおもしろさを理解して笑いながら集中してお話を聞いていました。

マルチメディアDAISY図書は、音声が流れている部分がハイライトされるため、子どもたちは、スクリーンに大きく映し出される絵を見ながら、そして音声を聞いて文字を確かめながらお話を読み進めることができるので、より話の内容を理解することを助けるものだと感じています。

## おわりに

今回、「読書の秋！」ということで、昔話や民話など、普段ではあまり子どもたちが読まないお話に触れる機会を作りたいと思い、実践を行いました。

実践を行う中で、知的発達に遅れがある子どもたちがいろいろなお話に親しむためには、絵本などの紙媒体の資料だけでなく、マルチメディアDAISY図書やDVDなどの多様な媒体の資料が

必要だということを実感しました。子どもたち一人ひとりが自分の楽しめる媒体で読書の楽しさを味わうことができるように今後も支援していきたいと思います。

